ごあいさつ

学長　平山郁夫

東京芸術大学は、専門学校であった東京美術学校と東京音楽学校が昭和二十四年に新制大学として統合された、わが国唯一の国立の芸術大学であります。

東京美術学校の草創は明治十七年に文部省に置かれた図画調査会に溯り、翌十八年、その決議により文部省図画取調掛が発足、明治二十年東京美術学校と改称しました。

東京音楽学校は明治十二年、文部省に音楽取調掛が置かれたのがその始めで、明治二十年に東京音楽学校と改称、明治二十六年から一時期東京高等師範学校の附属音楽学校となりましたが、同三十二年には再び独立しました。

このように、両校の発祥の経過は異なっておりますが、明治二十年にはともに文部省直轄学校として学校体系の中に位置づけられました。以後今日にいたる道は必ずしも平坦ではありませんでしたが、時に当たった先輩諸氏の努力によって、多くの人材を養成し、わが国の芸術の分野において重要な役割を果たしてきました。

昭和六十二年に創立百周年を迎えた本学は、その記念事業の一環として、わが東京芸術大学の百年史を刊行することになりました。いま百年に及ぶ長い歴史を振り返ることは、本学に課せられた使命であるところの、芸術分野における教育・研究の充実と発展にとって、極めて有意義なものと考えます。

百年の資料を調査収集し、編纂する仕事は容易なことではありません。このために長期の時間と努力を費やされた方々と御協力いただいた方々に心から感謝申し上げるとともに、今後の大方の御協力をお願い申し上げます。

平成四年七月

ごあいさつ

美術学部長　澄　川　喜　一

今回発行の『東京芸術大学百年史、東京美術学校篇』第二巻には美術学部の前身である東京美術学校の明治三十二年から大正八年までの歴史が、豊富な資料に基づいて記述されています。この時期は名校長と言われた正木直彦のもとに同校がわが国唯一の国立美術専門学校としての体制を樹立して行った時期にあたりますが、一方、美術界では作家の制作や美術思想、美術に関する制度等において、近代化へ向けての実に大きな進展があった時期でもあります。東京美術学校はこうした美術界の進展に対してもさまざまのかたちで寄与し、また、その影響も受けながら、自らの成長の道を探索したのでした。今回の第二巻に収録されている資料を丹念に読みますと、そうした経緯が具体的に把握でき、また、この時期の東京美術学校、美術界の活気をも感じ取ることができます。その点が一般の学史と異なって美術に関わりのある者の興味を引くところでしょう。なかにはこれまで見落されていた貴重な文献資料や写真図版なども多々含まれており、近代美術史研究の上でも大いに役立つものと思われます。

平成四年七月